

# 令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 筒井 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## I. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

### 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問調査

### 児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

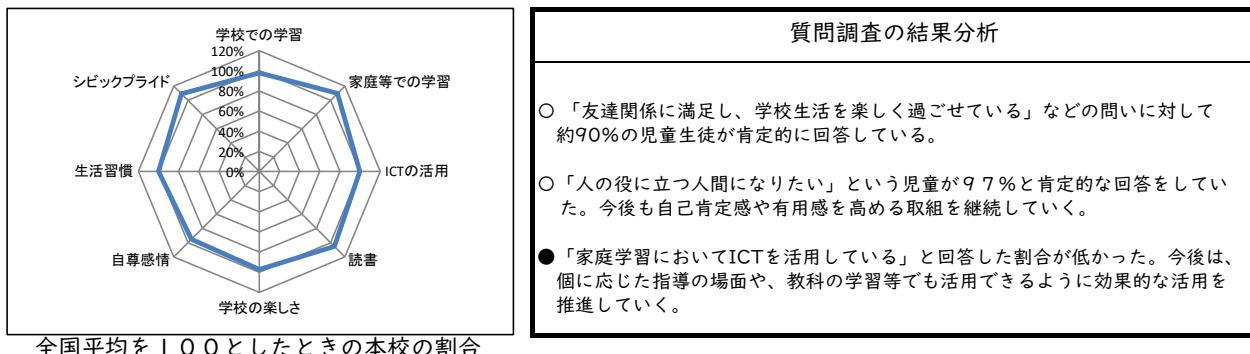
#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○ 文章を読む目的を明確にして、必要な情報を捉えさせること、伝えたいことの根柢を明確にして書く力が備わっている。 ● 目的や意図に応じて、必要な情報を集め、分析したり、分類し関係付けたりすることに課題がある。	全国平均正答率との比較  上回っている	
	よくできた問題	話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。		
	努力が必要な問題	目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。		
算数	全体的な傾向や特徴など	○ 基準となる数を見いだし、数量の関係を捉え、算数的な用語や表現について知識を活用していく力が備わっている。 ● 異分母の分数の計算や图形の性質を基に作図することに課題がある。	全国平均正答率との比較  上回っている	
	よくできた問題	伴って変わるべき二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いたし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。		
	努力が必要な問題	異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる。		
理科	全体的な傾向や特徴など	○ 電気が通る回路を実際の生活の中でつくることに関して理解し、問題解決や科学的な探求のプロセスを通じて、知識を活用していく力が備わっている。 ● 条件について差異点や共通点を基に問題を見いだし、表現することに課題がある。	全国平均正答率との比較  上回っている	
	よくできた問題	乾電池のつなぎ方にについて、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる。		
	努力が必要な問題	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見いだし、表現することができるかどうかをみる。		

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- 学校の授業では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら問題解決をすることに取り組めている。
- わからないことはすぐに調べたり、ICTを使ってプレゼンを作ったりするなど、これからもICTを活用し、個別最適な学びと協働的な学びを充実させていく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 毎日同じ時刻に起床し、朝食も毎日食べて、生活習慣が整っている。
- 平日の学校以外の時間で、家庭学習する時間が少ない傾向にある。自主学習の推進やドリルアプリの活用を通して、学習時間を確保し、規則正しい生活習慣をさらに推進していく。